



リステラス星圏史略
古資料ファイル 4－10
『大地、終焉』



(発掘整理作業中)

霧樹里守 is 土岐真扉

(角を曲がれば待ってるだろうか)

『 (無題) 』 (高校初期、だと思いが.....??)

2006年7月27日 [連載 \(2周目・大地世界物語\)](#) [コメント \(2\)](#)

角を曲がれば待ってるだろうか
ドアを開ければ行けるだろうか
近くて遠い 魔法の国へ
隣にあっても 見えない国へ

峠こえれば 行きつくだろうか
アーチくぐれば入れるだろうか
近くて遠い 地球の姉上
ぼくが暮らした魔法の国へ

いつか再び行けるだろうか
いつか再び会えるだろうか
ぼくが暮らした第二の故郷
ぼくが愛した あの少女

角を曲がれば待ってるだろうか
ドアを開ければ行けるだろうか
近くて遠い 向うのこっち
一度訪れ 再び去った
二度と行けない ぼくの故郷
ぼくが愛した あの土地へ.....

『 鋭 ・ その後 』 （中三、とノートの表紙に書いてある☆）

2006年7月27日 連載（2周目・大地世界物語）

鋭はマーシャたちの結婚式の後、不老長寿となる「命の山」の「火の水」の入ったガラス壺を受け、エルシャマーリャから次元航海理論の記されたオリハルコンの記録器（テープ）をあずかって地球に帰ります。

「火の水」によって年をとらなくなった鋭は人民戦線に加って戦争回避と歴史的文化の保存につとめる一方（この時期、かの朝日ヶ森学園は一つの学園国家として人民戦線の根城になっています.....これがのちのアロウ・スクールです）、記録器（テープ）の解読につとめ、遂に次元移送機を造りあげて再びダレムアスの大地に立ちます。

しかしそこにはかつての面影はありません。

ボルドム軍との最後の決戦は、ボルドムの地を破壊すると共にダレムアスにも衰弱をもたらしたのです。

「命の山」はもはや息絶え、「火の水」の減少によりダレムアトの平均寿命はいちじるしく短くなりました。

しかも決戦の際に多くの「力有る者」が死に、仮に生き残っていたとしてもすでに聖霊自体の命数がつきようとしていたのです。

ダレムアスはもってあと1000年、生存可能なのはせいぜい100年くらいでしょう。

賢者団は鋭と人民戦線に救いを求めました。鋭と次元科学者・宇宙航海学者たちは必死になって"ダレムアスの箱船（ノア）"たるフェアリスティラーヤを造ります。.....間にあうでしょうか?!

その間にも地球の状態は悪化し、最終戦争となってしまいました。

ダレムアト（エルシャマーリャ）の一部が自ら希望して「兄弟世界の復興」のために地球に残ります。

また、幾隻ものフェアリスティラーヤが広い宇宙空間に飛びたち、あるものは別の惑星、またあるものは異次元へ、そして船のままさまよう者など（「白い砂漠の星」のマリアマースの母親の船もその一隻）、ダレムアスの末もちりぢりになるのですが、.....ボルドムの生き残りがやはり恨みからそれを追っているのです。（小六の時の「話」のノート参照）

不老不死の孤独に耐え切れなくなった鋭も共に旅出ち、銀河の星のあちこちを転々としていますが、どこにも落ち着くことはできません。

.....地球がすっかり冷え、あとはただ凍りついたままだけのを待っている.....そんな時に帰って来て砂の上をさ迷い、眠りにつこうとします。

すると、もう一人の長寿人が遠くから現れました。

「.....やあ。君もかい?」「うん」

心の行き場、愛する相手を失った長寿人たちはこうして一人一人消えてゆくしかないのです。

[『 清峰 鋭 \(きよみねえい／リレキセス・ジュンナール\) の物語 2 』 \(@1995.04.08～\)](#)。

2006年11月30日 [連載 \(2周目・最終戦争伝説\)](#)

地球時間で約150年 (設定未決★) にわたった、大地世界における彼の行動の詳細については、『大地世界物語・皇女戦記編』を参照されたい。

個人的な物語としては、大地世界で皇女の冒険にまきこまれ、行動を共にするうちに、マーライシャへの初恋を自覚するが、同時に、後に皇女の夫となった翼雄輝 (つばさ・ゆうき) がいる限り失恋確定だという事実を認識し、かといって打ち消せるような半端な感情では有り得ず、その矛盾から逃れるまでは思考・行動ともに相当ヒネクレまくっていた。

早くから球の地 (ティカーセラス) 系勢力によって英雄として祭り上げられた雄輝 (マ・ディアロ) に比べ、皇女の従者または医師としての立場しか認められずにいた自分への引け目もあったと思われる。

皇女の遍歴の半ば、大地の背骨山脈 (ミアテイネア) の真奥・神都“始源平野” (マドリアウイ) への訪問に同行した際、かの地の火口で永遠の眠りについていていた半神女マリステアと交感し、同じ半神人としての出自を初めて示唆されるが、「それはまた別の物語」として、詳しいことは語られない。

苦しみや疑問や、すべての謎に問いかけ続ける毅さを自ら望むのであれば、永遠無窮の旅をするがよい……と、半神女マリステアは自らが放棄した“神”としての寿命 (の一部?) を彼に分け与えた。

(大地世界の伝承においては“不老長寿の秘薬”として語られているが、これはあくまでも現象界における象徴 (イメージ) であり、物語の小道具に過ぎない)。

また、この事実は彼が大地世界で活躍していた当時は一般には伏せられていた。何とならば、この事によって大地世界そのものに割譲される筈だった“命数”が大幅に減ったからである。

その後、皇女が陣容を整えるに従って、懐刀である清峰 (ジュンナール) の声望も必然的に上がり、また地球文明では基礎中の基礎である簡単な物理学 (滑車やテコの原理) などを大地民にも解りやすい形で応用する機会が重なって、“知神ヨーリャの再来”として水神 (ヨーリャ) 学派 (信徒) を束ねる存在になる。

が、地球からの諸勢力が大地世界への侵攻を開始し、大地・洞地・球地みつどもえの乱戦に突入すると同時に、立場は不安定なものとなった。

早くから大地世界への帰化を宣言していた雄輝に比べ、彼はいずれ地球に帰るものと自分でも思っており、長く離れていた地球での政情の変化などについて、大地世界でもっとも苦しんでいたのは彼でもあった。

友人の苦悩を救う意図もあり、同時に政治的な必要性もあって、界間の通廊をその監視下におく月女神レリナルの協力を仰いだ皇女が、地球世界との架け橋として呼び寄せたのが、『朝日ヶ森』の当時の理事長を務めていた楠木律子の――（この辺また年表がおかしい★）――、孫娘・高原律子であった。

彼女の経験については皇女戦記中に一章を設けて語られている。彼女にとっては出逢った当初は遥かに年上に感じられた清峰 鋭 は、命の恩人でもあり、憧れのヒーローでもあった。

その他、実は彼に心酔していた人物は相当数いた筈だと思われるが、当の本人はその美貌を自覚するというよりは、いまだ自分の女顔に対するコンプレックスを引きずっており、皇女以外には恋愛感情を抱けなかった（と言うより、日々に失恋し続けていた）せいもあり、いたって無頓着なボクネンジンだった。

一方で、地球圏からの侵略軍基地に潜入した際、大地世界には存在し得なかった悪しき？風習である同性愛？者によって強姦されちゃったりという経験もしている★ その後は少しは自分に対する認識が変わったようで……★

長きにわたった3界の乱戦時代が終わり、月女神によって界狭間の結界が閉じられる事になった際、皇女と雄輝との戴冠・婚姻を待たずに、清峰 鋭 と高原律子とは本来の所属世界へと帰還した。

[『大地世界物語』 ～界をわたる船～](#)

2006年4月29日 [連載 コメント \(7\)](#)

大地世界物語の、終末編。

かつて戦禍を乗り切った皇女が女皇となり、はるかに時が過ぎてすっかり美しく年老いた頃。その戦禍の時の傷がもとで修復不可能となった大地世界の滅びを目前に迎えてしまい、全世界を救い出すために、かつて共に戦ってくれた地球出身の親友に助力を求める……、と、いう話。

そしてその親友というのが。 d(^^;)

『暗黒童話』のエピソードの中で命を受け（おかーさんが妊娠し）て、『ありえる・たうん』のはずれにある孤児院で育ち、『最終戦争伝説』の前哨戦では幼くして《統合教育センター》の陰謀に巻き込まれて転校を余儀なくされた上に、なんの因果か転校先の小学校の同級生が『大地世界物語』の逃亡中の皇女の仮の姿であったりしたが為に異世界ファンタジーに巻き込まれて思春期と青春と初恋と大失恋を戦乱の中で体験したあげく、何故か女神たちから気に入られてしまい不老不死の身体となって地球圏に戻り、『最終戦争伝説』中では、さながら指輪物語中のトム・ボンバディル氏のよーな名脇役としてサイドストーリーを固め、そちらと同時進行で滅びに向かう『大地世界』からの避難民の移住方法と移住先探しの総合プロデューサー？の役を押し付けられ……………。

……………と。

考えた(?) 作者本人が、いま書いてて目が回ってきたぐらい、とんでもなく多忙で出ずっぱりで、実は而も更に、これだけ書いててまだ「絶対ネタばれ防止」のために書かないでおこうと思って伏せてるぐらいの……。

一番秘密の、重要キーパーソン。 d(・_・)'''

なんていう、実はとんでもなく大変なお話し。

でも、これ、書くの大変すぎるから、
実わ書かずに済ませよー!! とかね、

思っているストーリーだったりして☆

(^◇^;)>”

+++++

.....あ、あと、もうひとつ。

「界をわたる」「界渡り」という語句は、
これもやはり、麻樹ゆう氏に、
使われてしまいました!! (^◇^;)d”

麻樹ゆう氏の、月光界シリーズの、
活版印刷（活字を手で拾って並べていた）時代の
同人誌を、中学校の頃に通信販売？で買ったやつ、
だいぶ以前に、うっかりして、
ブックセンターいとうに叩き売ってしまったので.....

断言できるのですが。

その頃はまだ、氏の話には、「界渡り」という単語、
出て来てませんでした！（私が読んだ範囲内では）。

だから誓って言いますが「界をわたる」という単語（概念）は、
氏のまねしたわけではなくって、「偶然の一致」なんですよ!!

d(・_・)”

リステラス星圏史略
古資料ファイル 4-10
『大地、終焉』

<http://p.booklog.jp/book/108653>

著者：霧樹里守 is 土岐真扉

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/masatotoki/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/108653>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/108653>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ